

うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより
第44号
2020(令和2)年8月26日
(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

染織工芸の継続を支え — 日本竹箴技術保存研究会を訪ねて —

岐阜県瑞穂市を訪ねてきました。日本竹箴技術保存研究会の研修所を見学させていただくためです。現在、日本において竹箴を製作することのできる確かな技術と設備、材料を揃えているところはここしかありません。商業ベースにおける竹箴の生産と流通は、平成13年(2001)に日本竹箴工業株式会社が廃業するに至って途絶えてしまったからです。

機織りに欠かすことのできない道具が3つあります。綜統(そうこう)、杼(ひ)、箴(おさ)の3つです。綜統とは経糸(たていと)をたとえば奇数群と偶数群に分けて交互に上下させ、緯糸(よこいと)を通すための空間をつくる道具、開口させる道具です。杼とは、開口した経糸の間に緯糸を通すための道具です。シャトルとも呼ばれます。そして箴は、経糸の間隔を整え経糸の間に通した緯糸を打ち込むための道具です。

綜統には、金属製の金綜統と糸でつくる糸綜統があります。箴にも金属製の金箴(かねおさ)と、竹製の竹箴があります。金属製の道具が現れるまで、日本の手織りを支えていたのは間違いなく熟練職人の手業による糸綜統であり、杼であり、竹箴であったはずです。

ところが、前号で紹介させていただいたように、3年間恋い焦がれた大和機(やまとばた)をようやく我が家に迎えることが出来た筆者は、現物を前にして初めてそのことに気づき、戸惑いました。これまで自宅で使用していた高機では金綜統と金箴を用いており、相楽木綿伝承館機織り教室では竹箴を用いていながら、自分の竹箴を準備するという点についてあまりにも無頓着でいたからです。糸綜統は糸の組み方さえ間違わなければ誰でも手作りすることができます。杼は、本誌第29号に既報のとおり、日本で唯一人の国選定保存技術「杼製作」保持者の長谷川淳一氏より分けていただいたものがあります。また、工業製品としての杼であれば、容易に入手は可能です。ところが、竹箴だけはもう手に入らないのです。ヤフーオークションやメルカリに出品されている竹箴はあるものの、箴羽の数が合わなかったり古美術品であったり、使用に耐えられそうにありません。そこで、慌ててあれこれと探し求めている内に、京都の竹材店「竹虎四代目」山岸義浩氏を介してご紹介いただいたのが、日本竹箴技術保存研究会の会長下村輝氏でした。下村氏は京都の糸屋「下村ねん糸」(京都市右京区西京極)の本業の傍ら、一度は途絶えかけた竹箴製作技術の復活と保存に情熱を傾けて取り組んでおられる方で、連絡をとるや快く研究会の研修日に合わせてご案内いただくことができました。現在、会員は約40名とのこと。訪問した8月22日はコロナ禍と猛暑にもかかわらず6名の方が活動されていました。会は平成15年(2003)に結成され、活動拠点である研修所はかつて竹箴の全国生産8割のシェアを誇った日本竹箴工業株式会社があった岐阜県瑞穂市祖父江の近くに 있습니다。

なお、同会は平成29年(2017)に国の選定保存技術保存団体に認定されました。文化庁の答申書には「同会の製作する竹箴は、我が国の伝統的な染織工芸の継続を支え、その品質についても染織関係者に高い評価を得ている。」と記されています。詳しくはWEBサイト「日本竹箴技術保存研究会」参照。

http://y-shamoto.sakura.ne.jp/take/t_index.htm



使い古された竹箴 2020. 8. 22 研修所にて

Monthly Data

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 令和2年7月24日～令和2年8月23日)

埼玉県1、東京都2、神奈川県2、愛知県1、奈良県1

【H.A.M.A.木綿庵】(令和2年7月24日～令和2年8月23日)

メールを含む各種相談件数11、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数5件8名



《綿の栽培記録 2020》－ 令和2年度版 その7－

天理市乙木町における梅田の感覚的観測データです。○=晴れ。△=曇り。×=雨。○/×=晴のち雨。○|×=晴時々雨。
△:×=曇り一時雨。7月26×、27△、28△|×、29△|○、30△|×、31○:×、8月1○、2○、3○、4○、5○、
6○、7○、8△|○、9△|○、10○、11○、12△|○、13○、14○、15○、16○、17○、18○、19○、20
○、21○、22○、23○|△、24○、25○:×。

コットンボールがはじけはじめました。今期初の開絮を確認したのは8月12日です。7号畑の和綿の真岡綿でした。真岡綿はその後次々とはじけ、1週間ほど遅れてその他の和綿も一斉にはじけはじめました。今年度は8種類の和綿の種を播いている中で、明らかに真岡綿が群を抜いて早くはじけました。早生種ということでしょうか。洋綿は8月24日に1号畑の白綿で初めての開絮を確認。6号畑の洋綿の緑綿も開絮。

8月25日の夕刻に激しい夕立があり、8月に入って初めての、24日ぶりの降雨となりました。この間、畑は干上がり、綿木の葉も一部が枯れはじめたほどです。それでも、はじけたコットンボールはふわっふわっです。なお、8月24日から各畑の綿木に5g/1本、穴肥(棒肥)の要領で順次有機化成888の追肥をはじめました。生殖生長を促すためです。同時に、ハマキムシ被害を受けた葉を適宜摘み取っています。

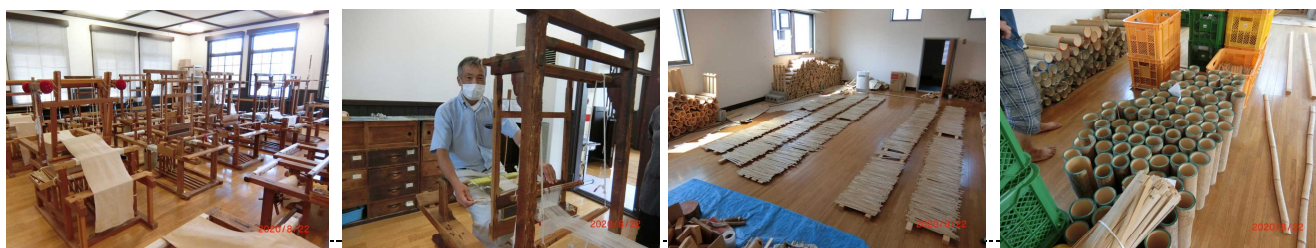
写真左より：7号畑の真岡綿(和綿)の畝。真岡綿のコットンボール。1号畑の洋綿の開絮の様子。洋綿のコットンボール。



《刈谷市郷土資料館、日本竹箴技術保存研究会を訪ねて》 令和2年8月22日

刈谷市郷土資料館には、市内の各家庭から寄贈された手織り機が多数保管されており、その機を利用した手織り教室が開催されています。かつて当地には、どこの家庭にも手織り機があったそうです。

日本竹箴技術保存研究会研修所には、竹箴づくりに適う選りすぐりの竹材が、多数保管されていました。写真左より：刈谷市郷土資料館の手織り機、体験の様子。竹箴技術保存研究会研修所に保管されている箴用の竹材の様子。



【綿の加工の作業記録】 (梅田1人の作業量)

- 糸車を用いての糸紡ぎ量 (和綿：平成30年, 2018年産。丹羽正行氏による打ち綿)
7月24日～8月23日(作業実日数25日) 糸の総量64.9g (17.3匁) 総時間211分(3時間31分)
※1分間≒0.308g 1時間≒18.5g (4.9匁)

【研修等の記録】

- 令和2年07月27日「相楽木綿伝承館：機織り教室専科」(京都府相楽郡精華町)にて『しまい布』の扱い。
- 令和2年08月02日「和泉茜の里」(大阪府忠岡町)にて杉本一郎氏による日本茜染色講習会に参加。
- 令和2年08月04日「NAFIC」(桜井市)短期農業研修:実習。セルトレイを用いた播種、育苗について。
- 令和2年08月09日「相楽木綿伝承館：機織り教室専科」(京都府相楽郡精華町)にて機織り。機下ろし。
- 令和2年08月13日「NAFIC」(桜井市)短期農業研修:実習。土壌分析、PHとECの測定方法とその意味。
- 令和2年08月17日「NAFIC」(桜井市)短期農業研修:講義。税の仕組みと帳簿管理、申告方法について。
- 令和2年08月18日「NAFIC」(桜井市)短期農業研修:実習。露地の土壌診断とセル苗の鉢上げ。
- 令和2年08月22日「刈谷市歴史博物館」(愛知県刈谷市)を訪問、豊田自動織機G3型の展示を見学。
- 令和2年08月22日「刈谷市郷土資料館」(愛知県刈谷市)を訪問、『おさの会』の機織り体験に参加。
- 令和2年08月22日「日本竹箴技術保存研究会研修所」(岐阜県瑞穂市)を訪問、下村会長にご案内頂く。
- 令和2年08月24日「NAFIC」(桜井市)短期農業研修:講義。土壌肥料Ⅱ、農薬の安全使用Ⅱ。
- 令和2年08月25日「NAFIC」(桜井市)短期農業研修:実習。太陽熱殺菌の後片付け、セル苗の管理。